



特集 あけおめ! にほんのHappy New Year!	P 2
令和6年度 岡山県国際交流協会 年間行事予定表	P 3
事業報告 災害救援専門ボランティア (通訳・翻訳)研修会 ほか	P 4・5
外国人エッセイ 私の何でも自慢 ダン クアン ティンさん	P 6
WorldなんしよんNow? ～岡山人からの便り～ 香川 景子さん	P 7
ボランティア活動しています! 赤澤 節子さん	P 8
作ってみよう!世界のレシピ スリランカ風じゃがいもカレー (スリランカ)	P 8
JICA寄稿 橋本 千明さん (岡山県JICAデスク)	P 9
イベントカレンダー 留学生と県民との交流会 ほか	P 10

おかやま 国際交流



令和5年度コンシェルジュによる^{たの}楽しい居場所づくり事業 「あけおめ! にほんのHappy New Year!」

共催: 岡山大学「留学生支援ボランティア実習」受講者グループ

県内に住む外国人を対象に、日本のお正月文化を体験できるイベントを開催しました。

当協会ではコンシェルジュとしてイベントの企画・運営に携わる留学生と、岡山大学の「留学生支援ボランティア実習」を受講する学生が協力して実施したイベントです。

当日は15か国、45名が参加し、習字や折り紙、けん玉などの遊び、着物の着付けなど、「日本らしい」お正月の楽しみ方を体験しました。次ページで、参加者の様子を紹介します。

令和6年1月27日(土)

令和5年度コンシェルジュによる^{たの}楽しい居場所づくり事業

あけおめ! にほんのHappy New Year!

「外国人に日本のお正月を体験してほしい!」という、学生の声から企画がスタートしました。学生たちは「どうすれば外国人の方に来てもらえるだろう?」「外国人の方々はどんなことを体験したいんだろう?」と意見を交わしながら、イベントの準備を進めました。



イベントでは、様々な日本文化を楽しんでもらえるよう、「習字」「日本の遊び」「着物」「かるた」の4つの体験ブースを設置しました。各ブースでは、学生やボランティアが特技をいかして参加者をもてなしました。

むかしの遊び Japanese game

折り紙、けん玉、こま、お手玉など、昔ながらの日本の遊びを体験しました。どの遊びもシンプルですが、つつい夢中になる面白さがあります。



かるた Karuta card game

ひらがなのかるたや、百人一首を並べて展示しました。

色とりどりのカードは見るだけでも楽しい気持ちになります。



習字 Calligraphy

お正月といえば、書き初めです。「正月」「あけおめ」「孫」など、先生のお手本を見ながら好きな文字に挑戦しました。



着物 Kimono

好きな着物を選び、ボランティアが着付けました。

着付けが終わると、会場のあちこちで記念撮影会が行われました。



参加者からは「日本文化を体験できて良かった」「外国人の友達がたくさんできた」などの感想が寄せられました。準備を進めてきた学生たちにとっても、「人を喜ばせる」ことの難しさ、楽しさを実感する機会となりました。今後も様々な団体と協力し、新しいイベントを企画してまいります。

令和6年度 一般財団法人岡山県国際交流協会 行事予定表

月別事業

予定月	行事名	開催予定日
6月	第1回 親子で遊ぼう - Family Friendly Event -	6月29日(土)
7月	留学生と県民との交流会	7月27日(土)
8月	やさしい日本語研修会(岡山県内)	8月(予定)
9月	英語で話そう	9月14日(土)
	子ども日本語学習サポーター研修会	9月(予定)
10月	国際貢献・協力セミナー	10月
11月	海外マガジンリサイクル	11月
	ワールド・エクササイズ(岡山県総合グラウンド)	11月2日(土)
	第2回 親子で遊ぼう - Family Friendly Event -	予 定
	地球市民講座	
12月	日本文化体験・交流会	
	日本語ボランティアスキルアップ研修会	
	地域共生サポーター養成講座・研修会	
R7年1月	ボランティア交流会	
	多文化共生コミュニケーションサポーター研修会	
2月	災害救援専門ボランティア(通訳・翻訳)研修会	

※行事予定は変更となる場合があります。ご了承ください。

*都合により、日程等は変更する場合があります。最新情報は、下の二次元コードを読み取り、当協会のウェブサイトをご覧ください。

ホームページ



Facebook



X(旧Twitter)



Instagram



令和5年度 災害救援専門ボランティア（通訳・翻訳）研修会

令和6年2月17日（土）

講師：NPO法人多文化共生マネージャー全国協議会 楊 軍（谷尾 陽子）氏 共催：岡山県、岡山市、倉敷市

災害時の外国人被災者の支援を迅速かつ円滑に行う体制づくりを目指して、災害救援専門ボランティア（通訳・翻訳）登録者及び災害時の外国人支援に関心のある県民を対象とした研修会を開催し、外国人8名を含む41名が参加しました。

はじめに、県国際課の榎原 聡一郎氏が災害救援専門ボランティア（通訳・翻訳）制度について説明を行い「岡山県の在留外国人は3万人を超えている。外国人の困りごと・不安の上位に『災害や緊急事態の対処の仕方』が挙げられており、災害救援専門ボラン

ティア（通訳・翻訳）の力が必要である」とボランティアの登録を呼びかけました。

続いて熊本県在住の講師の楊 軍氏から、熊本地震時に支援者の協力を得て、情報の多言語化や発信、避難所巡回活動等により被災した外国人の支援を行った経験をお話いただきました。

昼食には非常食体験を行い、午後から、行政職員と外国人との「仮設住宅の申込み」に関する会話の通訳ロールプレイや、「り災証明書」「避難所における感染症予防」の翻訳に挑戦しました。参加者らは適切な表現や単語の選び方について意見交換を行ったり、疑問点を相談し合ったりしながら意欲的に取り組んでいました。

研修会を通して「平時から日本人と在住外国人が交流を深めておくことが、災害時の様々なトラブルを防ぐことにつながると理解できた」「ロールプレイで実際に通訳を行う場面を想像でき、気づきが多かった」「災害時に備えてもっと勉強したい」等の感想が寄せられ、新たに9名の方に災害救援専門ボランティア（通訳・翻訳）にご登録いただきました。



真剣に災害情報の翻訳に取り組む参加者



講義の様子



通訳ロールプレイでは災害用語に苦戦



岡山県災害救援専門
ボランティア（通訳・翻訳）

募集中！



岡山県では、災害救援専門ボランティア（通訳・翻訳）を随時募集しています。活動場所は、在宅や現地、災害時多言語支援センター等選択することができます。また災害時に活動依頼があった際に、ご自身が被災されている場合や活動が難しい状況である場合は、お断りいただくことも可能です。

できる範囲で活動いただけますので、外国語通訳・翻訳の知識を有する方で、災害時の外国人被災者の支援に関心のある方は、ぜひご登録をお願いします。

（ボランティア登録及び問合せ）
岡山県県民生活部国際課
TEL:086-226-7284

災害時には、手を取り
共に助けあいましょう！



左から災害救援専門ボランティア
（通訳・翻訳）の伊 甲辰さんと
侯 暁軍さん

活動内容

- 外国人被災者のコミュニケーション支援
- 外国人被災者に提供する各種情報の翻訳（想定される活動）
- 市町村関係者が避難場所などで被災者と面談する際の通訳
- 電話または避難場所等に出向いての通訳
- 災害時多言語支援センターにおける各種情報の翻訳
- FAXやEメールなどを使った在宅での翻訳

多文化共生コミュニケーションサポーター研修会

2月11日(日)①10:00～12:00(午前) ②13:00～16:00(午後)

講師：(一財)自治体国際化協会(CLAIR)地域国際化推進アドバイザー
公益財団法人 北九州国際課交流協会 主任/多文化ソーシャルワーカー
北九州市多文化共生ワンストップインフォメーションセンターセンター長
矢野 花織氏

行政窓口や学校等で外国人と日本人のコミュニケーションを通訳としてサポートする「多文化共生コミュニケーションサポーター」新規登録希望者と登録者、延べ55名の参加者のもと「ボランティアとして語学力×コミュニケーション能力を磨く」と題した研修会を開催しました。

午前中は、通訳倫理と相談支援の基礎知識として対人支援全般に役立つスキル、通訳倫理、通訳の練習方法を実際に体験しながら学びました。



ロールプレイ中

午後は、言語別トレーニングを重点的に進め、ケーススタディやロールプレイにも挑戦し、実践的な知識や対応についての学びも深める機会となりました。

最後に矢野氏は、当研修会が一人で通訳現場に向かう参加者にとって「『多文化共生』という目標を持ったチームの一員としての一歩である」という言葉で研修会を締めくくられました。



講義の様子



意見交換を見守る講師

日本語講座「日本文化授業」に行ってみた!

3月16日(土)



皆さん知っていましたか? 日本語講座では「日本文化授業」を年度に一度、クラスごとに行っています。

土曜日のクラスの受講生と先生たちが、いつもの教室ではなく調理実習室に集いました。テーブルには美しいピンク色の道明寺粉や桜の葉が並んでお出迎え。そう、このクラスの日本文化授業のテーマは「桜餅づくり」だったのです。

先生から桜餅の文化的背景や作り方の手順を日本語で学んだあとは、いよいよ実践です。5か国8名の受講生のほとんどが初めての挑戦で、加熱されたもち生地に苦戦しつつも、先生にたくさん質問したり助言を受けたりしながら、とてもかわいらしい桜餅を作り上げました。

準備から調理、実食(ラマダン^(※)中の受講生は持ち帰りました)を通して、生活に密着した日本語を学ぶことができ、そして何よりも先生方や仲間と共同作業を行う

楽しさを味わうことができました。

さて、次回はどんな文化授業が待っているのでしょうか? 楽しみです。



(※)「ラマダン」とは?

イスラム教徒の義務の一つで、ラマダン期間の約1か月間、日の出から日没までの間、飲食を断つこと。

外国人エッセイ

私の何でも 自慢

出身地の自慢

ドンタップ省出身の私が誇りに思うのは、この地域の美しい自然と豊かな文化です。緑豊かな田園風景や見事な川が広がり、それぞれが独自の魅力を持っています。また、私の町はおいしい食べ物や活気ある市場で知られ、温かい人々が日々の生活を送っています。ドンタップ省といえば、美しいハスやハスに関連する商品が有名です。ハスはベトナム文化の象徴であり、花や根、葉は様々な料理や製品に使われています。例えば、ハスの花びらから作られたお茶や、ハスの根から抽出される美容製品などがあります。ハス製品は、地元の芸術家や職人によって手作りされ、その美しさと品質で広く愛されています。



実家のハス田(レンコン畑)

日本に来たきっかけ

幼い頃から、本を通じて、地形、気候、言語、文化がベトナムとは全く異なる新しい土地を探索するのが好きでした。私はいつかその地に行って、生活を送るという思いを大切にしていました。

ある日、ベトナムで環太平洋大学(以下、IPU)の日本語の先生に会いました。先生の言葉や話し方に触れたことで、私の心に深い感動が生まれました。その経験は私の夢をさらに大きくし、日本への渴望が一層強くなりました。日本に留学した理由は、日本語が使えるようになりたかったのもありますが、それよりもベトナムでは知ることができない日本の文化や、歴史、ライフスタイルを知りたかったからです。また、様々な人と交流したかったというのも大きな理由です。



ベトナムでの日本語クラス

大学生活の4年間で、視野が広がり、新しい価値観に触れることができたので本当によかったです。

ダンクアン ティンさん

(国籍:ベトナム ドンタップ省出身)

- 所 属: 環太平洋大学 (IPU)
- 日本滞在歴: 4年



学業以外にイベント運営やコンシェルジュ活動などでも活躍中のダンクアン ティンさんに伺いました。

大学で学んだこと

1年生の時、日本語での授業を理解することに苦労しました。特に経済の授業では、専門用語や知識が必



文化体験

要で混乱しました。しかし、IPUの先生は授業後にやさしい日本語で詳しく説明してくださいました。今では日本語教師養成課程にも挑戦中です。人とコミュニケーションを取るのが好きなので、日本文化をたくさんの人に伝えたいと考えています。IPUは知識だけでなく、社会での考え方やスキルも教えてくれます。そのスローガンである「夢・挑戦・達成」を一生忘れず、卒業後も役立てたいと思っています。IPUを選んで良かったです。

活動について

日本語の壁にぶつかっていた時、あえて、ほとんどの学内のイベントに参加しました。そこで多くの人と出会い、私の価値観が変わりました。徐々に、参加するだけでなく、日本人の友人と一緒にイベントを運営するようになりました。

また、岡山県国際交流協会が開催していたイベントでコンシェルジュの方々と出会い、多くの会話をしたことで、コンシェルジュの役割に興味を抱きました。その後、先輩を介して私もコンシェルジュとして活動する機会を得ました。これらの経験と様々な人々との交流によって成長することができました。私は、ベトナムの文化や食文化に情熱を持ち、それを語ることが国民の誇りを示す、すばらしい方法だと考えています。「環太祭」という学園祭で出店したり、公民館では、先生となつて、ベトナム料理の教室を開催するイベントを担当しました。ベトナムの文化をより多くの人に知ってもらえて、非常にうれしかったです。



コンシェルジュ活動

World なんしよん Now?

おかやまじん たよ
～岡山人からの便り～

世界各地で生活する岡山人を紹介する新企画です。各国・地域に深く長く根付いている方々から、生活者の目線で現地の日常を語っていただきます。

今回は、日本で知り合ったベトナム出身の男性とご結婚のちオーストラリアへ永住。

メルボルン：モナシュ大学併設の日本文化センターに勤務するなど、現地で働きながら子育てを終え、現在は自身の趣味などで楽しく日々を過ごしていられる高梁市出身の香川景子さんからの寄稿です。



かがわ けいこ
香川 景子氏

おーすたらあ
メルボルンより

ここメルボルンに1歳半の長女を連れて、主人と永住して42年になろうとしている。

最近、一週間がたつのがぐっと

早く感じるようになったが、年月も同じで、鏡に映る白髪頭の顔もあつという間に老人。小さい頃は泣き虫だった長女は二人の子を持つ母親となり、もう一人の娘も3人の母親に。ここ数年は私も孫の世話で毎日忙しく楽しくしている。



まご すし ばーてぃー
孫と寿司パーティー

振り返れば、人生の流れの中で、主人と30代前にオーストラリアに移住し、40代で横浜市に一時帰国、50代で中国大連市にと、いろいろ貴重な経験をしてきた。行く先々でそれぞれの人や文化、生活に触れることができたのは、かけがえのない経験だったと感謝している。

我が家には小さいながら裏庭や表庭があり、果樹や野菜畑が見える。緑や土が大好きなのは、やはり私が生まれ育った故郷・岡山県高梁市での生活からであろう。庭いじりをしていると、麦、米、野菜を栽培し年中忙しく働いていたおや、すたしきおりのうそん親の姿と四季折々の農村の生活が思い出される。

日本と同じでメルボルンには四季があるが、雨が少なく乾燥気味で、土もなかなか黒土とは言えない。それでも、春のジャガイモ



はたけ あおあ だいこん
畑の青々とした大根



たくさんの吊る柿

から始まりソラマメ、夏はトウモロコシやトマトにキュウリ、秋になると大根、ニンニクなどを育てている。去年、友人からゴボウの種をもらったので少しバラエティーが増える予定だ。初夏には梅酒や梅干しを作り、今は吊るし柿を作っている最中で、日々庭から「楽しみ」と「おいしいもの」をいただいている。



やせい かんがー
野生のカンガルー
(ビクトリア州立公園にて)

土曜日の午前中は日本人の友人4人と1時間余り歩き、お茶をしていろいろと生活の情報交換をしている。歩くはずのコースを外れ、ついつい予定にないところを歩いていることもあるが、新しい物を見たり出会ったりの楽しさにかえて良いものだ。また30分余り車で行けば、あちこちに州立公園があり野生のカンガルーが見られるので携帯電話のカメラが大活躍している。

一方、定年退職した主人は、日曜日は台湾系の寺の図書館でボランティアをしている。ベトナム生まれだが中国系の主人は本が大好きなので、心身ともに健康な時間を送っているようだ。

我が家の隣人は、インド、ギリシャ、ポーランド、マレーシア系といろいろだが、地区的には最近アジア系が多くなっている。親切な人が多く、お互い助け合う気持ちも強いので、あまり神経を使わずのびのびとやっている。

私たちは国際結婚をしたといっても、多民族国家のこの地ではごく当たり前の感覚だ。一人ひとりの理解と尊重により、友好で温かい家庭・社会が輪のように広がっていくのだと思う。

一さて、今日はどんな種をまきましょうか？



さんじよ さんか しょうがつこうれい もち じたく
ご近所さんも参加の正月恒例の餅つき(自宅にて)

ボランティア活動

しています！



岡山県国際交流協会

岡山県国際交流協会

図書資料室ボランティア

赤澤 節子さん

図書資料室のボランティアを始めて3年目になりました。

書店勤務29年、建設会社で米軍基地工事の入札事務9年を経て完全リタイア後、社会との繋がりを持てる何かに携りたいと考えて、いろいろと探しました。協会のホームページでボランティア募集を見つけたのは幸運でした。

現在、週1回の短時間ボランティアと、月1回の終日ボランティアをしています。

海外新聞を含む新聞の入替えや新着本の整理、DVDなどの貸出・返却受付、古新聞の譲渡対応などの手伝いをしています。

ボランティアをする楽しみは、職員やボランティア同士、利用者の方と話す機会があることです。自分以外の人の経験や考えを聞くことは大変興味深いことです。よく利用される方からは日本語教師の国家資格化について、いろいろと深い話を伺いました。図書資料室でボランティアをしていなければ、知る機会はなかったでしょう。ボランティア活動のたまものです。

デジタル化の進歩で書籍を取り巻く状況は厳しく感じますが、図書資料室にはテーマに沿って選り抜かれた蔵書があります。落ち着いたこのスペースが多くの方に利用いただけたら良いなと思います。これからも毎日のウォーキングとチェロの練習、そしてボランティア活動を続けます。



図書資料室での楽しい時間！

作ってみよう！ 世界のレシピ

スリランカ風じゃがいもカレー 「アラホディ」

スリランカ風じゃがいもカレーは、スリランカの家料理で、スパイスを効かせた風味豊かなカレーです。ご飯と一緒に食べたり、パンにつけてたりして食べることが多いです。ぜひご自宅で作ってみてください。

レシピ紹介者
サバン・ヒロシ氏
(スリランカ出身)



材料 (2人前)

じゃがいも ……2個
玉ねぎ ……1/4個
にんにく ……2片
青唐辛子 ……1本
かつお節 ……ひとつまみ
水 ……150ml
ココナッツミルク ……150ml



調味料

・カレー粉 (あれば)
・ターメリック ……小さじ1/2
・チリパウダー ……小さじ1/2
・スリランカカレーパウダー ……大さじ1
・塩 ……小さじ1
・黒胡椒 ……少々
・セイロン・シナモン (あれば)
……ひとつまみ

作り方

- 1 じゃがいもは皮をむいて一口大に切る。玉ねぎ、にんにくは薄切り、青唐辛子は種を取り除いて輪切りにする。
- 2 鍋にじゃがいも、玉ねぎ、にんにく、青唐辛子を入れ、★とかつお節をまぶしてから水を注ぎ入れ、中火にかけて蓋をする。煮立ったら火を弱めて10分ほど、じゃがいもが柔らかくなるまで煮る。
- 3 ココナッツミルクを加え、優しくかき混ぜながら煮込む。味がなじむまで5分ほど煮込み、塩で味を調える。ご飯を皿に盛り付け、カレーをかけて完成。



JICA 寄稿



はじめまして!

岡山県JICAデスク

国際協力推進員着任のごあいさつ

独立行政法人国際協力機構(JICA)
岡山県国際協力推進員

橋本 千明 さん

皆さん、はじめまして。4月より岡山県のJICA国際協力推進員として勤務させていただくことになりました。橋本千明と申します。

私の国際協力への関わりは、看護師として日本の病院で働く中で小さな赤ちゃんを看護する経験から始まりました。その頃は「世界のどこでも同じ治療が受けられるのだろうか」という疑問を抱えていました。その疑問を自分の目で確かめたいという思いから青年海外協力隊へ応募し、タンザニアの病院で看護師として活動しました。

当初は水・電気・人材の不足に直面しました。私は日本の整った環境でしか働いたことがありませんでしたが、ここにはいろいろなものが無い。でも、現地の看護師たちはそこにあるもので問題を解決する力を持っていました。この経験から彼らへの尊敬の念と、「あるも

ので何とかできる」という気持ちが生れました。

例えば入院する患者さんが、点滴をされると思いますが、日本で使われるような点滴スタンドではなく壁にくぎを打ちつけてビニールひもでつるしたりして工夫していました。

ゆったりとした時間感覚、お金や仕事への感覚の違いなどに戸惑いましたが、皆で支え合う文化に感銘を受けました。患者さんが入院すると家族が皆で食事や着替えの世話をを行うのです。仕事も休みます。日本では考えられませんが、私が現地で熱を出した時も、同じように皆が見舞いに来てくれました。病気になると治療ができず亡くなる人も多いので「直接会って見舞う」ことが大切にされていました。

一方、入院が長引くと家族の収入が途絶えるので、必要な治療をしたらなるべく早く家に帰ってもらうことが大切でした。日本とは違う考え方にはそのような理由がありました。

岡山に移住後は地元のNPOで勤務し、災害支援で被災地へ行くこともありました。その時に多くのボランティアの方に関わっていただきました。そこで活動できたのは、「物が足りない中でどうするのか」を異文化の人たちから学んだ知恵があったからだ感謝しています。

「無い」から考えをやめるのではなく、あるものでどうするかを考えることが大切なのだと思います。日本にも世界にも、様々な経験を持つ方がいらっしゃいます。社会への貢献を望む人々の熱意に触れ、日本と世界のつながりを改めて感じます。国際協力は、異なる文化を学び、相手の大切なものは何かを知り、人々の生活に根ざした活動することだと思います。

岡山県JICAデスクを通じて、皆さんと共に学び、支え合い、そして行動できることを楽しみにしています。

限られた水を大切に
使う生活



同僚と病院のごみの
分別について啓発



国際協力に関するご相談は岡山県JICAデスク(橋本)まで。

E-mail : jicadpd-desk-okayamaken@jica.go.jp / 電話 : 080-2934-8497

Facebook : <https://www.facebook.com/jica.okayama>



7月

留学生と県民との交流会

県内在住の留学生が講師となり、出身地の文化を紹介し、自由に会話をすることもできます。

- と き 令和6年7月27日(土) 13:30~15:30 (予定)
- 対 象 国際交流に興味のある県民、県内在住外国人
- 参加費 無料
- 定 員 50名 (要申込み、先着順)
- 申込み 企画情報課 (6月下旬受付開始予定)

9月

子ども日本語学習サポーター研修会

外国にルーツを持つ小中学生への日本語学習支援に必要な知識と技術を学びます。研修修了者は本協会の「子ども日本語学習サポーター」に登録できます。

- と き 令和6年9月 (予定)
- 対 象 子ども日本語学習サポーター登録者及び新規登録希望者
- 参加費 無料
- 定 員 40名 (要申込み、先着順)
- 申込み 企画情報課 (8月受付開始予定)

※最新情報は当協会のホームページをご確認ください。

〈会場はすべて岡山国際交流センターです。〉
問合せ・申込みは企画情報課まで。



9月

英語で話そう

様々な国の人と、楽しみながら英語でコミュニケーションをとりましょう。

- と き 令和6年9月14日(土) 13:30~15:30
- 対 象 協会会員または県内在住外国人で、簡単な日常英会話ができる方 (高校生以下は協会会員でなくても参加可)
- 参加費 無料
- 定 員 40名 (要申込み、先着順)
- 申込み 企画情報課 (8月中旬受付開始予定)

会報誌アンケートのお願い 今後の参考にさせていただくため、ご協力をお願いします。

年4回お送りしている会報誌は、皆さんからのアンケートのご意見を参考にさせていただきながら、協会職員が毎号編集会議を開いて企画案を一生懸命考えています。

令和5年度は「外国人エッセイ 私の何でも自慢」「ボランティア活動しています!」「事業報告」などに高評価をいただきました。今年度は、新企画として世界各地で生活する岡山県出身の方を紹介する「WorldなんしょんNow?」というページを設けましたので、ぜひご一読ください。

これからも読者の皆さんの声を反映した誌面づくりを頑張りたいと思います。アンケートから、読みたい記事などについてご意見・ご感想をお寄せください。



アンケートフォーム

会員募集

一般財団法人岡山県国際交流協会では会員を募集しています。

☆会員の特典

- 会報誌「おかやま国際交流」による国際交流情報の提供 (年4回)
- メールマガジンの配信 (月1回)
- 協会主催事業への参加費割引 (団体会員は1団体2名までを割引)
- 入会時に記念品をプレゼント

☆年会費

個人会員: 2,000円 団体会員: 10,000円
賛助会員: 30,000円

☆申込み・問合せ 総務課まで

TEL: 086-256-2000 ※9:00~17:30 (月~土曜日)
E-mail: kokusai@opief.or.jp



最新情報は、当協会のホームページやFacebook、X (旧Twitter) 等で随時お知らせします。



ホームページ



Facebook



X (旧Twitter)



Instagram

問合せ

一般財団法人 岡山県国際交流協会

企画情報課

☎086-256-2914 (月~土 9:00~17:00)

総務課 ☎086-256-2000 (月~土 9:00~17:30)

会議室等の予約 受付管理班 ☎086-256-2905 (9:00~17:30)

[休館日] 12月29日~1月3日及び臨時休館日 (ただし日曜日は貸室業務以外休み)

編集・発行

〒700-0026 岡山市北区奉還町2-2-1

岡山国際交流センター内 一般財団法人 岡山県国際交流協会

☎086-256-2000 (月~土 9:00~17:30)

☎086-256-2226

ホームページ: <http://www.opief.or.jp>

Facebook: <https://www.facebook.com/coolopief/>

X (旧Twitter): https://twitter.com/opief_okayama

Instagram: https://www.instagram.com/opief_okayama/

E-mail: kokusai@opief.or.jp